



函館ゆかりの士

フリーライター

小沢 信行 (おざわ のぶゆき)

1978年北海道新聞社に入社。記者として函館、釧路、小樽などで勤務。編集委員、論説委員などを務め2017年退職。日本森林インストラクター協会会員。道新文化センターで樹木観察の講師を務める。

函館は「箱館」と書いた江戸時代から港町として栄えてきました。この地に店を開き、北前船で本州との交易を行ったのが高田屋嘉兵衛です。幕末になると黒船でペリーが来航し、人々を驚かせました。明治維新の際には戦場と化し、旧幕府軍を指揮した土方歳三が命を落とします。こうした人たちの銅像が今では街のシンボルとなり、歴史の案内役を務めています。

高田屋嘉兵衛 構想から実現まで30年

兵庫県淡路島に生まれた高田屋嘉兵衛が箱館に渡ったのは28歳の時です。ここを基地として造船、海運などを手掛け、国後島、択捉島の漁場や航路の開発で北洋漁業の発展に貢献します。

1811年、ロシアの艦長ゴローニンが国後島で日本側に捕された事件では、ロシアと日本の仲介役となり、釈放にこぎつけました。この卓越した外交手腕が嘉兵衛の名を高めたのです。

没後1世紀を経て、偉業を称える銅像建設を考えたのが近江政太郎でした。戦後まもなく日魯漁業（現マルハニチロ）の社長を務めますが、まだ一社員だった近江は1928年、教育会長斎藤与一郎、図書館長岡田健蔵と協議し、函館出身の彫刻家梁川剛一に制作を依頼します。梁川はさっそく、高さ60センチの石膏原型を作り上げました。

問題は資金の調達です。近江は社長の堤清六に協力を要請します。堤は「いい企てだがどこに建てるつも

りか」と尋ねました。朝夕、若者の目に触れやすい市の中央か公園に建てたいと答えたところ、「高田屋嘉兵衛は日本の大偉人だ。そんなケチなところへ建てず、函館ドックの先の防波堤の突端に建てたらどうか」と言われます。

もっともですが、計画の数倍の大きさにしなければならず、寄付が集まるまで何年かかるかわかりません。また不便で多くの青少年が行ける場所ではありません。

近江はこう返答したのですが、堤は「高田屋嘉兵衛のような大偉人は何万人の中から1人も出るものではない。偉い人になるような青年なら、防波堤の突端まで行くよ」と説いたのです。

近江は時局が今後どうなるかわからないので、将来はとにかくとして、この構想を実現させてほしいと粘りました。すると、堤は日魯で総経費の半分を負担すると約束、その年の重役会で正式決定しました。

しかし、計画は簡単には進みませんでした。翌年、日魯を揺るがす大事件が起きたのです。ロシア領漁区の競売で、日魯が落札する予定だった漁区すべてが他者に高値で奪われ、取り戻すため莫大な出費に追い込まれました。その結果、銅像建設も中止せざるを得ませんでした。

そして嘉兵衛130年忌の1956年、銅像建設の機運が再び盛り上がります。山ノ内ホテルの主人、山内伝作が「ぜひ銅像を建立してほしい」と50万円を寄付したことで、1958年の開港100年祭記念事業となったので

す。近江は函館開港100年祭準備委員会の像建立部長となります。総工費は571万円。募金には日魯のほか、北洋関係の大手企業、独航船主らが協力しました。

銅像制作を引き受けたのは30年前の原型制作者梁川です。意気を感じた梁川はほかの仕事をなげうち、前回よりさらに完成度の高い作品を目指しました。嘉兵衛の容貌、風格を知るため、嘉兵衛に関する本を11冊も読みました。

その結果、表現しようと決めたのは、ゴローニン事件でロシア側と会見する間際の気迫に満ちた姿です。大きな業績を残した嘉兵衛が函館山を背景にして見劣りしないよう像は3.6m、台座は7.5mと見上げるほどの高さにしました。

函館開港100年祭が開幕した1958年7月15日、宝来町の護国神社坂下では、祭に花を添える高田屋嘉兵衛像の除幕式が行われ、東京から来た嘉兵衛の子孫が幕を引きました。経過報告に立った近江は「30年来の念願が実を結んだわけでありまして、誠に欣快に堪えません」と語りました。

戦前に建てられた銅像は戦時中、金属回収でそのほとんどが撤去されました。もし、30年前の夢がすぐに実現していたら、「戦後の再建」という難題が待ち受けていたかもしれません。



函館山を背にする高田屋嘉兵衛像

ペリー 3団体の協力で立像に

マーシュ・カルブレイス・ペリーは米国海軍初の蒸気軍艦艦長となり、「蒸気軍艦の父」と呼ばれました。東インド艦隊司令長官として来日、1854年3月には日米和親条約に調印し、下田と箱館の開港を実現しました。箱館には5月17日から6月3日まで滞在、風俗や自然などを観察し、記録に残しました。

日本の歴史教科書に登場するほど有名なペリーですが、その足跡を示すものは、松前藩家老らと会見した弁天町の商家跡地にある木製標柱と案内板だけでした。

そこで、幕末の歴史に光を当てようと函館日米協会の有志が2001年、ペリーの胸像建設に動きだします。期成会の発起人代表石田勉は「全国区のネームバリューがあり、函館の新しい観光資源として観光客にもアピールできる」（函館新聞2001年3月10日）と考えました。

これに賛同した函館ロータリークラブは創立67周年事業、函館北斗ライオンズクラブは創立40周年記念事業として協力、日米協会を含めた3団体が4月、ペリー提督来航記念碑建立協議会を設立します。会長には日米協会副会長の加藤清郎が就任しました。

加藤は「函館日米協会で、ペリー提督の函館上陸150年にあたる2004年を目指し、ペリーを顕彰する記念行事を考えていたところ、函館ロータリークラブと函館北斗ライオンズクラブから、一緒にやらせてくれないかという申し入れがありました。一団体で実現するには限界があり、協会としては願ってもない話。3者で打ち合わせ、3団体の共同事業と位置づけました」（函館新聞2001年4月23日）と述べています。

その効果はすぐに表れました。当初は800万円の事業費で胸像を建てる計画でしたが、話し合いを重ねる中で、もっとインパクトのある立像へと夢が膨らんだのです。ペリーが訪れた神奈川県横須賀市と静岡県下田市にあるのはいずれも胸像。立像はペリーの出身地、米国ニューポート市にしかありませんでした。

立像を可能にしたのは、函館市と日本馬主協会連合会からの支援が決まり、建設に必要な1,500万円の確保にめどがついたからです。

記念碑建立協議会副会長の若山直は「従来、ロータリー、ライオンズというアメリカ発祥の2つのクラブは、ライバル同士であり、事業協力することはまれであった。それだけに、この事業は特筆に値することだと思う」と振り返っています。

一方、制作を引き受けた函館出身でローマ在住の小寺真知子は、函館新聞（2002年5月20日）のインタビューで「皆さんの熱意や苦勞に応えようと、全身全霊で取り組んだつもりです」と語っています。

「歴史上の人物なので、持ち物や衣服を調べるのに時間がかかりました。一番苦労したのが、ペリーの人格や人間性」。ペリーがそばにいるような気がするまで、彼に関する本を十何冊も読みました。

そして「モデルとしたペリーは、60歳の老境に入った男性。でもそれだけではなく、ペリーは波乱にとんだ時代に世界を見つめた大変な国際人。単なる軍人ではなく、幅広い知識や視野を持って前進し、大きな歴史を作った人物だと思います」。

小寺が歴史上の人物に挑戦したのは初めて。制作にあたっては同じ函館出身の梁川剛一が手掛けた高田屋嘉兵衛像を随分意識しました。そう思って見ると、函館山を背にして海を見下ろす姿は嘉兵衛と同じで、右手を胸元に当てるしぐさも似ています。

除幕式は2002年5月17日、ペリーが寄港した148年前の同じ日に、弥生町の市立函館病院跡地で行われ、



立像としては国内初のペリー像

加藤は「ペリーの偉業を後世に伝えていきたい」とあいさつしました。

その後、ペリー提督来航記念碑建立協議会は10月に解散。翌年5月17日には、協議会の議事録や写真を収めたCD-ROMなど関係資料を箱に詰め、タイムカプセルとして像の横に埋めました。ペリー来航200周年の2054年に取り出し、記念事業に役立ててもらおう計画です。

土方歳三 使命に駆られ3体も制作

函館出身の彫刻家小寺真知子がローマに移住した1980年以降、いつも夢見ていたのは、生まれ故郷のために彫刻を作ることでした。ペリー像を手掛けるなど思いは少しずつ実現しますが、一番強くこだわっていたのは土方歳三の銅像でした。

新選組副長の土方は京都の治安維持に当たっていましたが、新政府軍に敗れ北上。1868年、旧幕府軍と合流して北海道へ渡ります。翌年5月、新政府軍の箱館総攻撃が開始され、馬上で指揮を執っている際、銃弾を腹部に受け34歳の若さで絶命します。

「是非はともかく、あの純粹で壯絶な生き方は、青春の結晶の様で胸を突かれます。日本から関係のある本などを取り寄せて調べながら読み進んでゆくうちに、土方歳三の彫刻をつくる事は私の使命の様な気がしてきたのです。頼まれたわけでもないのに、あれこれと彫刻の構想を練っている」と小寺は1997年、高校の同窓会報に書いています。

その「使命」を果たす機会がついに訪れます。制作を依頼したのは函館の五稜郭タワーでした。創立40周年の2004年は、NHKで大河ドラマ「新選組！」が放映されます。新選組ブームが巻き起こるのは必至。土方人気が高まれば、戦死地の函館に人々が詰めかけます。それまでにシンボル像を建てようと考えたのです。

小寺の苦心談が雑誌「歴史街道」（2004年3月号）に紹介されています。日本の侍を外国でどうやって作るのかと心配する人もいましたが、小寺は「雑音が入らなかったために、自分が本当に作りたい土方像を作ることができた」のです。



タワー1階にある土方歳三の立像

土方の写真等を等身大に引き伸ばし、ローマのアトリエで毎日ながめていました。すると普段気が付かなかったことが見えてきます。例えば、ブーツは南北戦争が終わったばかりの米国から入った陸軍将校用の余剰物だったのではないか。フロックコートは当時フランスだけで作られていた上等のフランネルだろう。

形にするにあたり、最期の出陣の場面にしようとも考えましたが、少し前の一番満ち足りた時期にしました。「侍の為の新しい国を作るのだという希望を持ちながら港を見下ろしている、そんな姿を表現したいと思いました」。

侍の表情をたたえた洋服姿の銅像は、タワー前の敷地に設置されました。2003年12月1日の除幕式で、小寺は五稜郭タワー社長の中野豊らとともに幕を引きました。

普通はこれで責任を果たしたと^{あんど}安堵するところですが、小寺は土方にかなり執着していました。立像のほか依頼のない胸像も制作し、式典後の完成祝賀会で披露したのです。湧き出る創作欲が止まらなかったのでしょう。函館滞在中には、さらに座像も制作していることを明かしました。



タワー展望台にある土方歳三の座像

座像は新タワーオープンの2006年4月、展望台に設置することが決定。1年以上も早い2004年12月には函館に届きました。椅子に腰かけた写真をもとに、2年がかりで仕上げた力作です。座像到着の報道後、土方ファンから問い合わせが相次ぎ、五稜郭タワーは2005年2月4日、新タワーの完成を待たず、旧タワーの展望台で公開を始めました。

小寺は「一番作りたい」と願っていた土方像を3体も制作することができました。そのすべてを五稜郭タワーが後世に残すべき作品として買い取りました。さぞかし本望だったでしょう。

新タワー完成以降、立像は1階アトリウム、座像は展望台に設置、胸像は社内に置かれ非公開となっています。

「使命」を果たした小寺はその後、病に侵され2012年6月、ローマで亡くなりました。62歳でした。函館では7月、中野が発起人代表を務め、しのぶ会が開かれました。

(敬称略、肩書は当時のもの)

<参考文献>

- ・ 須藤隆仙編「箱館 高田屋嘉兵衛」高田屋嘉兵衛顕彰会出版委員会、1979年
- ・ 函館ロータリークラブ70周年実行委員会記念誌編集委員会編「函館ロータリークラブ70年史」函館ロータリークラブ、2005年
- ・ 函館東高校関東地区青雲同窓会報「関東せいうん」第4号、1997年